

## 投書雑誌「文芸」〔2〕

猪 熊 雄 治

先に発表した「投書雑誌『文芸』〔1〕」の続稿として、「文芸」の第五〜六巻(昭2〜3)を紹介していく。前稿でも述べた通り、「文芸」は三巻後半以降、投稿誌面の拡充を進めてきた。こうした動きと呼応するように、誌面での焦点の一つとなったのが、投稿成績が傑出する書き手たちの出現だった。「文芸放送」(14・11)や「投稿家成績番付」(15・7)での投稿者の序列化は、成績の際立つ書き手たちの存在を、あらためて強調するとともに、自負を持つ書き手たちの競争意識を一層掻き立て、投稿を促すことになった。

この傾向が特に強く見られるのが、十五年の誌面であり、既に活躍していた海老名礼太に続き、三枝幸夫、渡部左次馬、杉沢文月、高木風外らが、続々と登場し、卓越した投稿成績を示していく。しかも海老名たちは、「誌友月旦」欄などにも多く投稿し、他の書き手や作品に対しても言及を加え、時には論争のような活発な応酬も展開している。投稿作品の相次ぐ掲載に加え、こうした旺盛な投稿活動により、海老名たちへの注目は一層高まり、その活躍に触発される形で、さらに新たな書き手たちの登場が続いていった。

優れた書き手たちの続出による効果については、誌面の賑やかさを導い

ただけではなく、投稿誌としてのレベルアップに繋がった実績も強調されている。三枝らとほぼ同時期に投稿を開始した加美仲野風(上中信夫)によれば、十五年の中頃「幾多の有望な新人が筈のやうに続出し」、それまで「幼稚な中学生の同人雑誌」のレベルにあった詩の投稿欄に「一種の革命的転換」(『文芸詩壇概略史』昭2・4)が訪れたのであり、投稿レベルの向上によって、「『現代文芸』『若草』『愛誦』などには：遜色ないまでに築かれた」ものの、「『文章倶楽部』『詩神』あたりと比べるとまだまだといふ気がする」(『期待する新人』昭2・12)との地点にまで「文芸」は到達したとされる。「文芸」の読者は、他の投書雑誌と比べれば、年少であった(加藤博『『文芸』の存在』昭4・8)らしく、それだけに投稿誌面のレベルは、関心を呼ぶ問題でもあった。海老名たちは、加美仲があげた雑誌でも、その力を発揮していたが、レベル引き上げの牽引であったと評価されるほど、同時期の読者には、その活躍が瞠目されていたと思われる。

新たな書き手たちによる誌面への効果を受けて、十五年から二年にかけての「文芸」は、その意欲と成果を、さらに広く生かしていく方向を模索していたようである。この時期「現代文芸」は新企画として、投書雑誌四誌での入選情報を伝える「投書雑誌当選作月評」や「全国投書家成績一覽」

をスタートさせ、さらには投票による「投書家十秀才」の決定を呼びかけていた。投稿意欲を刺激し、促進させるような雰囲気、読者に広がっていたことも背景にあったのかもしれないが、「文芸」は、特集記事の誌面構成に、読者からの投稿作品を取り入れていった。例えば二年一月号の特集「短篇小説号」では、特集予告の中で短編を募り、その結果五篇が掲載され、二月号以後の特集号でも、特集企画の中で、読者からの創作や評論が紹介されている。こうした方針の成果が強く発揮されたのが、三年一月の「同人雑誌紹介号」ではないか。読者からの投稿を軸に、地域ごとの活動や休廃刊などの、多くの情報が掲載されたこの特集は、「文芸」の特色を生かした「時機に適した企画」<sup>(2)</sup>の好例として、評価することができる。

二年以降の投稿誌面で、積極的に掲載されていったのが、特集にもなった同人雑誌紹介である。十五年には、海老名、三枝がそれぞれ「青光」「炬火」の同人を誌面で求めるなど、投稿欄で活躍する書き手たちは、活発な同人活動を展開していく。しかも三枝が参加していた「聖火」には杉沢が、杉沢の「青林檎」には、やはり投稿者であった浅野紀美夫が、浅野の「光風地」には杉沢、三枝、加美仲が同人として参加しているように、投稿者たちの同人活動は、地域をこえた広がりを見せている。「文芸」投稿欄を媒介にして、新たな同人関係が導かれたのであろう。海老名、三枝、加美仲のような、投稿意欲に溢れた書き手たちは、そうした活況を同人雑誌紹介欄で伝えたのであり、投稿成績の優れた書き手たちは、その注目を一層集めていくのである。「本誌以上に誌友を優待してゐるものは他にはないと思つてゐます。」(三年一月号後記)との自信も、投稿欄の多さに加えて、このような活躍を紹介する欄の設置からも出されていると思われる。

同人活動も含めた書き手への注目は、新しい投稿者を登場させる効果も

もたらしている。例えば、通信欄で、三枝の同人仲間や、海老名の後輩たちが今後の投稿を予告するように、投稿者の周囲は刺激を与えられ、新たな投稿を開始していった。「…本年度は創作の方面の新人推薦と、同人雑誌の紹介とに努力いたす考へです。」(三年一月号後書)と語るように、「文芸」は同人雑誌との関係を深めることで、投書雑誌として特色を追求し、以後も編集方針の軸として継続していった。

今回は五巻一号(昭和2・1)から六巻十二号(3・12)までを紹介するが、号数表示は目次に従い、刊行日を付加した。目次記述を基本としたため、頁が前後する場合もあり、目次と内題が相違する、あるいは注記等が必要な場合は「」内に加筆した。投稿欄の氏名については筆頭掲載者のみとし、掲載人数を記載した。ただし特集に関連した投稿については、氏名を記載した。投稿作品のうち、「推薦文欄」については掲載者名を、「誌友文芸」欄については散文、感想、短文、詩、童謡、民謡、小曲の入賞、佳作の氏名と掲載人数を記載し、入賞、佳作の該当者がいない場合は、筆頭掲載者名と掲載人数を記載した。短歌、口語歌、俳句については入賞者も掲載人数も省略した。選者名は記事内で明記されていた場合、「」内に加筆した。明らかな誤植は訂正し、漢字は新字体に改めた。

注

(1) 「学苑」平成十五年一月号

(2) 高橋新太郎「文芸」『近代文学雑誌事典』「解釈と鑑賞」昭和40年10月臨

時増刊号 至文堂

第五卷第一号 新年号 短篇小说号 大正16・1・1 192頁

むかしの正月 (研究)

赤堀又次郎 10

支那小話 (翻訳)

多賀 護 86

姉妹 (小説)

小林鶯里 12

海上風静 (俚謡)

下野幽波 88

とよ子の独語 (小説) [目次では「とよこの独語」]

今野賢三 22

小さな犯罪 [目次では「小さい犯罪」]

太田詩華二 92

少年の性感 (小説)

浅原六朗 28

二人の唄流し

杉沢文月 95

三好君の手紙 (小説)

武野藤介 32

邂逅した女二人

小崎常雄 103

壁に映る蚊 (小説)

十菱愛彦 35

老教師

岩田露草 107

茸と血 (小説)

中野正人 42

狂へる太陽

福田武夫 112

鍼力鐘 (小説)

岡下一郎 46

特別推薦 短編小説佳作作品と氏名

〔無署名〕 117

短篇小説雑考 [目次では「短篇小説雑感」]

X Y Z 伊藤松雄 他31名 54

特別推薦

小林八良 福田武夫 吉沢吉式 桜井きみ ケイ・ヤシロ 122

短篇小説に就て [アンケート]

金子光晴 60

散文

高木風外 森田峽村 大野静舟 126

断層 (詩)

大鹿 卓 61

新詩三篇 [目次では「詩」]

草野いく子 三枝幸夫 渡辺菊枝 128

樹蔭 (詩)

小林 操 62

狂へる一頁

冷 眼 生 130

百姓 (小説) [目次では「百姓の一族」]

花房晃二 [目次では「花房晃示」]

平家物語愚考 [目次には記載なし]

無 涯 人 131

短篇と長篇との差異

篠田道郎 70

文芸自由論戦場 [目次では「文芸自由論戦」]

馬場春江 他19名 140

ポウの功蹟と短篇の意義

法月歌客 80

誌友月旦

加美仲野風 他9名 170

十本の指 (短歌)

高山菊次郎 81

思索断章

渡部左次馬 [目次では「渡辺左次馬」]

彼女の勝利 [目次では「コント一篇」]

村井武生 82

散文 [編輯部選]

無花果 [佳作] 他12名 140

新詩四篇 [目次には記載なし]

竹内越村 82

感想

高木風外 [佳作] 他12名 152

眼

太田黒忠雄 83

短文

高木風外 他34名 162

朝空を観る

山中映村 83

詩 [大鹿卓選]

津田武治 [佳作] 他22名 170

雲

渡部左次馬 [目次では「渡辺左次馬」]

選後に [目次には記載なし]

大鹿 卓 179

小説研究の断片

84

85

179

小曲〔サトウ・ハチロー選〕 渡辺浮美竹〔入賞〕他14名 180～183  
 童謡〔下野幽波選〕

田中鉄繁〔入賞〕 窪田里重 吉沢吉式〔佳作〕他14名 184～189  
 童謡選後感〔目次には記載なし〕 下野幽波 189

心から心へ 190～191  
 忙中閑語 操 生 192

第五卷第二号 二月号 農民文芸号 昭和2・2・1 104頁

奉悼〔目次では「大正天皇の御歌才」〕 〔無署名〕 1  
 奉悼大正御宇天皇歌 渡辺光風 4

農民文芸生む者〔評論〕〔目次では「農民文芸を生む者」〕 小林篤里 6～8  
 赤堀又次郎 9～12

農民文学〔研究〕 大槻憲二 13～15  
 農民文芸の真義〔評論〕 伊福部隆輝 16～18

村落生活の中に生るゝ芸術〔評論〕 X Y Z 19  
 農民文学雑考 犬田 卯 20～21

ガツタ〔小品〕〔目次では「ガツツ」〕 大鹿 卓 22～23  
 踏切り〔短篇〕 高山輝雄 24～30

本人の保証〔短篇〕 馬場春江 31～35  
 犠牲〔短篇〕

新詩二篇〔目次では題名のみ〕 片岡阿輝羅 36～37  
 郵便配達 新樹 ケイ・ヤシロ 37

秋 下野幽波 38～40  
 田園生活と俚謡〔研究〕

民衆の台頭〔目次には掲載なし〕 鶯 里 生 41  
 赤堀又次郎氏の「日本文学青年表」〔目次では「新刊批評紹介」〕 山崎 麓 42、69

農民文芸の研究・評論・感想 松村 圀 松 53～55  
 農民文芸の社会的考察 河野 春路 55～57

農民文学の一考察 中野駿太郎 57～59  
 農民文学に就て 高木 風外 59～61

土の芸術私観 渡部左次馬〔目次では「渡辺左次馬」〕 61～63  
 土の芸術概論 浅野紀美夫 63～65

農民文芸雑感〔目次では「農民文学雑感」〕 芝原秀次郎 65～67  
 農民文学を論ず 長谷川 清 67～68

来る可き農民文学の方向〔目次では「来るべき農民文学の方向」〕 中西雄三郎 68～69  
 農民文学の逆輸入 萩原新生 他33名<sup>(4)</sup> 70～74

農民文学に就て〔アンケート〕 萩原新生 他33名<sup>(4)</sup> 70～74  
 誌友文芸 高木風外 三枝幸夫〔佳作〕他12名 84～87

詩〔大鹿卓選〕 選後に〔目次には記載なし〕 大鹿 卓 87  
 短歌〔小林綾子選〕 俳句〔篤里選〕

文芸創作壇瞥見〔目次には記載なし〕 浅野紀美夫 88～90  
 前号に執筆の方々〔目次には記載なし〕 〔無署名〕 91～94

「近代風景」雑感〔目次には記載なし〕 浅野紀美夫 95～96  
 「近代風景」雑感〔目次には記載なし〕 中西維三郎 96～98

関西同人雑誌評〔目次には記載なし〕

中西維三郎 96～98

片々〔目次には記載なし〕 金子迷羊 98 〓 101  
心から心へ 102 〓 103

忙中閑語 操 生 104

第五卷第三号 三月号 既成文壇への挑戦号

昭和2・3・1 104頁

弥生雑詠〔短歌再録〕〔目次には記載なし〕 若山牧水 他11名 4

松永貞徳の俳風〔俳論〕 小林鶯里 6 〓 7

漢字の文化の力〔研究〕 赤堀又次郎 8 〓 11

午後の冬日〔感想〕 西村陽吉 12 〓 15

手帳より〔隨筆〕 堀江かど江 16 〓 19

町の瞥見〔小説〕 (文芸街道) 同人 越中谷利一〔目次には「同人」の記載なし 以下同様〕

希望よりも美しく (麒麟) 同人 中村正常 26 〓 28

明日の爆弾 (火戯) 同人 竹越和夫 28 〓 30

既成文壇の作家達よ〔目次では「既成文壇作家達よ」 (中央文学) 同人 岩田賢一 30 〓 31

船出すべき人達 (火戯) 同人〔目次では「同人の一人」〕 31 〓 32

新詩二篇

空のエママルカ 水の上に唄へる〔目次では「空のエママルカ」(外一篇)〕

時代の鼻 梶〔目次では「時代の鼻」〕 森田孫雨 35 〓 36

菊池寛論〔目次では「菊池寛論」のみ〕

敏感なる鈍感者 菊池寛 中野駿太郎 36 〓 37  
菊池氏の横顔を除く 長谷川 清 37 〓 38

谷崎潤一郎論〔目次では「谷崎潤一郎論」のみ〕 加美仲野風 38 〓 39

谷崎潤一郎幻想 菅野徳衛 39

武者小路実篤論 渡部左次馬 94 〓 97

既成文壇への大挑戦 河野春路 48 〓 51

現文壇の後継者に就て 三枝幸夫 51 〓 53

胎生期にある日本詩壇 松尾哀花 53 〓 55

堂々の論陣 中野駿太郎 55 〓 57

真摯ならざる文壇 松村罔松 57 〓 58

職業的文壇の否定 海老名礼太 58 〓 59

既成文壇打破 長谷川 清 59 〓 60

既成文壇へ向けての不満 加美仲野風 60 〓 61

沈黙の血潮 新出与作 61

文芸自由論戦場 高木風外 他5名 62 〓 65

誌友月旦 渡部左次馬〔目次では「渡辺左次馬」〕 他2名 66 〓 67

誌友文芸 立入讓〔入賞〕 小林畦道〔佳作〕 他6名 74 〓 79

散文〔編輯部選〕 星野幽美歌 他4名 80 〓 82

感想 山田水哉 他19名 83 〓 85

短文 福田武夫〔入賞〕 能村義助 加壽汗多勞〔佳作〕 他13名 86 〓 89

詩〔大鹿卓選〕

詩〔大鹿卓選〕

詩〔大鹿卓選〕

選後に〔目次には記載なし〕〔無署名〕 89  
 小曲〔サトウ・ハチロー選〕

大久保はる子〔入賞〕 稲塚省三〔佳作〕他6名 90～91

童謡〔幽波選〕 渡辺浮美竹〔入賞〕 長谷川清〔佳作〕他6名 92～93

短歌〔小林綾子選〕 加美仲野風 94～98

同人雑誌雑感〔目次には記載なし〕 虚無草人 97～98

誌友郷土巡礼記(一)〔目次には記載なし〕 99

俳句〔鷺里選〕 100～101

心から心へ 102～103

忙中閑語 操生 104

第五卷第四号 四月号 後継詩人号 昭和2・4・1 104頁

仏教に入る道(研究) 赤堀又次郎 6～7

現詩壇に対する要望・感想〔アンケート〕 岡本潤 他41名<sup>(5)</sup>

8～11、15、20～21、27～31、36～41、46～50

詩の新しい坐函標(詩論) 吉田一穂 12～14

酒場(小説) サトウ・ハチロー〔目次では「サトウ・ハチロー」〕 18～19

残骸(小品) 野村吉哉 22～23

詩が書けなくなれ!(詩論)〔目次では「詩が書けなくなれ」〕

三好十郎 24～26

月評戦開始のベル(詩論) 萩原恭次郎 32～35

新興の詩人に告ぐ(詩論)〔目次では「新興詩人に告ぐ」〕

田辺耕一郎 42～45

新詩二十五篇

夜の部屋 冬無題〔目次では「夜の部屋外一題」〕 尾形亀之助 8

深夜から夜明への時間 渡辺 渡 9～10

山稜へ 手塚 武 10～11

新春譜 内野健児 15

バリモントの詩(訳詩) 尾瀬敬止 16～17

驟雨後 福原 清 20

PRINCE IGOR (No. 2)〔目次では「PRINCE IGOR」〕

後期芸術派作品 草野心平 21

上田敏雄 27～29

村野四郎 29～30

春 山田久磨夫 30

夢の茎 森 三千代 31

枯木 神谷 暢 36～37

心象スケッチ 黄 瀛 37～38

死亡広告 東野 純 39～40

田舎の音 角田竹夫 40～41

日光室 竹中 郁 46

春 多賀圭三郎 46～47

光 佐藤英麿 47～48

手紙 菊田一夫 48

雪の丘―オタルにて。〔目次では「雪の丘(オタルにて)」〕

鐘 清水好太郎 49～50

むだい 大久保はる子 51～52

三月

安藤 一郎 53

壺井繁治 12 ~ 15

後継詩人論〔目次には記載なし〕

藤井貞一郎 50 ~ 53

グロテスクな夢の断片〔短篇〕  
論闘争五篇  
「文士」始めから出直せ

後継詩壇に対する感想〔目次では「後継詩人の新詩論」〕

分裂の必然性

内藤辰雄 16 ~ 19

屋代啓 河野春路 伊藤久磨夫 浅野紀美夫

プロレタリア詩の領域

岡下一郎 20 ~ 23

新出与作 中西維三郎 長谷川清 星野胤弘

時評的な断想

小野十三郎 24 ~ 28

文芸自由論戦場〔批評と感想〕〔目次には記載なし〕

階級意識とその瞥見〔目次では「階級意識とその謬見」〕

岡本 潤 36 ~ 38

加美仲野風 他9名 76 ~ 82

文壇五行言〔目次には記載なし〕

〔無署名〕 78

水仙の芽〔目次では「竹とんぼ」〕

吉野保二 42 ~ 43

秋を訪ねて〔目次には記載なし〕

三枝 幸夫 84

一字一語の力

法月 歌客 29

赤蟹〔目次には記載なし〕

館 高重 84

葉山嘉樹論

中野 正人 30 ~ 33

誌友月旦

ケイ・ヤシロ 他6名 96 ~ 99

深夜

赤堀又次郎 34 ~ 35

詩〔大鹿卓選〕

青娥 矢島虹風 松田金秋〔佳作〕他28名 85 ~ 91

南瓜の蔭の人

神戸雄一 39 ~ 41

選後に〔目次には記載なし〕

大鹿 卓 91

フセワロード・イワノーフ 能勢登羅訳〔目次では「能勢登羅訳」のみ〕

44 ~ 47

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

潮こうじ〔入賞〕 加美仲野風〔佳作〕他7名 92 ~ 93

童謡〔幽波選〕

加美仲野風〔入賞〕 小林幸路〔佳作〕他6名 94 ~ 95

プロレタリア文学に関する評論〔目次では「プロレタリア文学論」〕

松村 罔松 56 ~ 58

心から心へ

操 生 102 ~ 103

分解運動に直面して

渡部左次馬〔目次では「渡部左次馬」〕

58 ~ 59

忙中閑語

104

プロレタリア文芸運動への一警告〔目次では「プロレタリア文芸運動への警告」〕

59 ~ 61

第五卷第五号 五月号 プロレタリア文芸号

昭和2・5・1 104頁

貞門の諸俳士に就て

小林 鷲里 6 ~ 7

加美仲野風〔目次では「加美仲野風」〕 61 ~ 62

糸を繰る娘〔短篇〕〔目次では「糸を繰る娘」〕

山田清三郎 8 ~ 10

横瀬 良三 63 ~ 64

道聴塗説の弊〔駁論〕

中村 星湖 11

プロレタリア文学を論ず  
プロレタリア文芸是非論〔目次では「プロレタリア文学是非論」〕

中野駿太郎〔目次では「松尾花泉」〕 64～66

長谷川 清 66～67

新出 与作 68

松尾 哀花 69～70

飛田 与太郎 70～71

加美仲野風 他10名 78～85

河野春路 倉田夜詩夫 84～85

稲塚素秋 他10名 96～101

高木 風外 86

夜 潮 86

能村幽石 中西維三郎〔佳作〕他16名 87～91

大鹿 卓 91

加美仲野風〔入賞〕 高木風外〔佳作〕他7名 92～93

西村蘭津波〔佳作〕他7名 94～95

松本孝〔入賞〕 他7名 94～95

童謡〔幽波選〕 他7名 94～95

心から心へ 102～103

忙中閑語 操 生 104

小林 篤里 6～7

赤堀 又次郎 8～9

西村 陽吉 10～13

誌友月旦

芸術と職人

芸術講話芸術学概論(三)〔目次では「芸術学概論」〕 木村秀吉 14～16

竹とんぼ 法月歌客 17

TANGO DANCE 白川碧星 18～23

プラチナの指輪 花岡雪香子 24～28

或る日の孔子 三保早苗 29～31

輝やく瞳 小林綾子 32

生活 白川碧星 33～34

梅の花咲く頃 小林畦草 34～36

ある新聞記者 杉沢文月 36～38

公設食堂 林きよ詩 38～39

兎牛録 高木風外 39～40

窮屈な娘 星野ゆみ歌 41

四月と足袋 稲塚省三 42

桜日より 本間末蔵 42

もくれん 山口栄一 42～43

春はぼつかり 新出与作 43

一人一評 佐谷 守 他4名 42～48

推薦詩三篇〔目次では「六月」「蛙の声は空に聳する」「春昼」〕

六月 子供教章 渡辺牧星 44～45

蛙の声は空に聳する 三枝幸夫 46～47

春昼 高木風外 47～48

文芸自由論戦場〔目次では「文芸自由論戦場(批評と感想)」〕 加美仲野風 他9名 56～71

誌友月旦 河野春路 他7名 78～99

第五卷第六号 六月号

誌友推薦号 昭和2・6・1 104頁

芭蕉以前に於ける連俳書

読書と批判

芸術と職人



誌友文芸

散文〔編輯部選〕

感想

短文

詩〔大鹿卓選〕

選後に〔目次には記載なし〕

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

童謡〔幽波選〕

短歌〔小林綾子選〕

黎明を前にして〔目次には記載なし〕

心から心へ

忙中閑語

稲塚省三 他9名 56～65

海老名礼太 他7名 66～71

高木風外 他29名 78～84

館高茂 他11名 85～89

大鹿卓 89

岸和夫 他7名 90～92

駿嶽生 他10名 93～95

渡部左次馬 100～101

綾子 104

昭和2・7・1 104頁

大衆文芸に対する要望 小林篤里 6～7

大衆文芸に就て 中西悟堂 8～12

大衆文学作家寸観 国枝史郎 13

風景と文芸と 赤堀又次郎 14～15

明治の大衆文芸作家 志賀晃路 16～17

文壇と作家の存在権 岡下一郎 18～20

毀誉褒貶〔目次には記載なし〕

大衆作家の文壇的進出 〔無署名〕 21

芸術講話芸術学概論〔四〕〔目次では「芸術学概論」

我等の子規句碑 法月歌客 28～29

吉野保二 30～32

木村秀吉 22～25

詩篇

せきで気がつき〔目次では「せきで気がつき」

サトウ・ハチロー〔目次では「サトウ・ハチロー」 26

九月・四月・五月 山田久磨夫 27

湘南にて 山本雲川 33

生活記録 塚本篤夫 34

不良少年 向日葵 牛 自然へ 幼子 寄居蟲〔目次では「不良少年」

大衆文芸に関する問題〔アンケート〕〔目次では「大衆文芸の諸問題」

金子洋文 他24名〔6〕 36～41

大衆文芸作家録 〔無署名〕 42～45

二足獣とバチルスと自然 松村罔松 44～47

誌友個人評論〔目次では題名のみ〕

福田武夫論 渡部左次馬〔目次では「渡辺左次馬」 56

加美仲野風論 稲塚素秋 56～57

高木風外論 岸野花泉 57

杉沢文月論 加美仲野風 57～58

渡部左次馬論〔目次では「渡辺左次馬論」

高木風外 船原逸郎 緑衣の騎手 58～59

大衆文学の批判〔目次では「大衆文芸批判」

浅野紀美夫 海老名礼太 加美仲野風 60～63

五月号詩壇批評 高木風外 他3名 64～67

誌友漫評 緒方慶一郎 他2名 78～79

巷に角笛を吹く人々〔目次では「巷に笛吹く人々」 芝原秀一郎 83

批評二篇

海老名礼太 他1名 84~85

清造の散歩

丹羽清二 12~15

新詩推薦〔目次では「詩推薦」〕

山口英一 86

温泉の二日

多賀護 32~38

蒼い風景 朝の詩

佐古 薫 86~87

文芸家の生活と思想に就て

中野正人 16~19

夕月絶唱

高木風外 87

探偵小説の印象

松原静夫 20~23

あの夜

安江交三 87

カミの妙味

志賀晃路 24~25

日本

中野駿太郎 他1名 96~97

探偵小説の進むべき路〔アンケート〕〔目次では「探偵小説の進むべき道」〕

真剣であれ

三枝幸夫 他3名 100~101

畑耕一 他20名 28~31、97

誌友月旦

高木風外 他5名 68~71

詩歌

法月歌客 26

誌友文芸

高木風外 他5名 80~82

魚が鳴く

森田緑雨 27

散文〔編輯部選〕

高木風外 他5名 88~91

歯・月・個性

小林操 39

感想

大鹿 卓 91

吾子を唄へる

田上黎民 48

詩〔大鹿卓選〕

選後に〔目次には記載なし〕

雨とふるさと〔目次では「雨のふるさと」〕

木村春樹 40~45

短文

林きよし 他12名 92~93

旅役者

加美仲野風 46

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

三枝幸夫〔佳作〕他8名 94~95

虹色の回想

海老名礼太 46~47

童謡〔幽波選〕〔目次では「童話」〕

菜歌憩〔佳作〕他8名 98~99

ポプラ樹 春〔目次では「ポプラ（外一篇）」〕

黒猫生 47

心から心へ

操 生 104

信濃の初夏

原田紫星 47

忙中閑語

井戸掘り〔目次では「井戸ほり」〕

探偵小説雑論

松村罔松 中野駿太郎 56~59

第五卷第八号 八月号 探偵小説研究号

昭和2・8・1 104頁

地方同人雜誌評

加美仲野風 他2名 64~65

講談雑考

一人一評海老名礼太論〔目次では「海老名礼太論」〕

探偵小説と現代

稲塚素秋 他1名 66~67

探偵小説と現代

小林鷺里 6~7

人物評二篇〔目次では「島田清次郎・ヨネノグチ論」〕

加美仲野風 他1名 78~79

絵画も文芸の一〔目次では「絵画も文芸の一つ」〕

大槻憲二 8~9

赤堀又次郎 10~11

小説

加美仲野風 他1名 78~79

誌友月旦〔目次では「誌友一人一論」〕 山田水哉 他5名 80～85

六月号の批評〔目次では「六月号批評」〕 稲塚素秋 他2名 86～87

彼の憂鬱 林由美子〔目次では「富岡二郎・林由美子」〕 92～93

誌友漫評〔目次では「北海詩戦・他一篇」〕 杉沢文月 他1名 96～97

自由論戦場〔目次では「誌友月旦」〕 稲塚素秋 他2名 100

誌友文芸 白川碧星 他5名 60～65

散文〔編輯部選〕 香取彪夫 他5名 68～70

感想 稲塚省三 他10名 84～85

短文 原野夜潮 渡辺牧星〔佳作〕 他10名 88～91

詩〔大鹿卓選〕 大鹿卓 91

選後に〔目次には記載なし〕 山口英一〔佳作〕 他9名 94～95

小曲〔サトウ・ハチロー選〕 島田隆詩 加美仲野風〔佳作〕 他6名 98～99

童謡〔幽波選〕 幽波 99

選后感〔目次には記載なし〕 山上に立つ 三枝幸夫 48～49

心から心へ 岩田賢一 47

忙中閑語〔目次では「忙中閑話」〕 操生 104

第五卷第九号 九月号 新人創作号 昭和2・9・1 104頁

古人の創作 赤堀又次郎 6～7

創作六篇 吉田金重 8～12

三病舎の窓 風早次郎 14～15

セツチン詰め 近藤二三郎 16～20

坂 馬場春江 33～37

村の異端者 藤本蔦之助 93

恋を拾ふ 杉沢文月 38～41

張子の虎でない 井上久 42～46

芥川氏著作年表〔目次には記載なし〕 〔無署名〕 21

詩四篇 吾子を唄ふ〔目次では「吾子をうたふ」〕 小林操 13

海 村井武生 22

葵 遠洋漁業船 小徳喜有次 24～27

夜のエピソード 安藤一郎 27

女流後継詩壇詩人一瞥〔目次では「女流後継詩人一瞥」〕 島田芳文 24～27

故芥川龍之介氏のことども〔再録 目次では「故芥川龍之介氏のことども」〕

徳田秋声 広津和郎 斎藤茂吉 島田青峰 三輪田元道

成瀬無極 西田博士〔目次では「文壇諸氏」〕

地方文壇・詩壇の現状〔目次では「東海地方詩壇」〕 岩田賢一 47

山上に立つ 三枝幸夫 48～49

松林にて 山口英一 49

七月号詩欄印象〔目次では「七月号詩壇評」〕 高木風外 48～49

玉石同架 晃路生 50

大衆文学概考〔目次では「大衆文芸雑考」〕 松村罔松 64～67

文芸自由論戦場 上中信夫 他5名 78～81

誌友月旦 上中信夫 他2名 88～89

一人一評高木風外論 渡部左次馬論〔目次では「高木風外論」〕

河野春路 他1名 92

童謡愚感〔目次では「童謡愚評」〕 藤本蔦之助 93

誌友漫評 富岡二郎 他4名 96～97

誌友文芸 散文〔編輯部選〕 林きよ詩〔佳作〕他7名 58～63

短文 高木風外 他16名 68～70

詩〔大鹿卓選〕 高木風外 海老名札太他〔佳作〕他19名 82～87

選後に〔目次には記載なし〕 卓 生 87

小曲〔サトウ・ハチロー選〕 市原鴻〔入賞〕 山口英一 林由美子〔佳作〕他7名 90～91

童謡〔幽波選〕 古市竹路〔入賞〕 山田一人 新井秀夫〔佳作〕他6名 94～95

選後に〔目次には記載なし〕 幽 波 95

心から心へ 操 生 104

忙中閑語 操 生 102～103

第五卷第十号 十月号 随筆号 昭和2・10・1 104頁

随感随想 小林鶯里 6～9

随筆のはなし 赤堀又次郎 10～11

君子か俗物か 内藤辰雄 12～15

随筆雑考〔アンケート〕 大槻憲二 他16名<sup>(8)</sup> 16～19

現代随筆家月旦〔目次では「随筆家月旦」〕 近藤二三郎 20～24

楓の舗道を歩く 吉野保二 26

何を求む可きか〔目次では「何を求むべきか」〕 大村主計 32～33

随感二つ〔目次では「随感二章」〕 中西敏一 34

詩篇

旅の歌など 小林 操 25

連翹 草野心平 28

私は思ひ出す 内野健児 28

渡り鳥さへ〔目次では「渡り鳥さへ」〕 福原 清 29

果物 名方 和郎 29

新詩 大村主計 32～33

生命のひびき 馬よ ことも〔目次では「生命のひびき〔外二篇〕」〕 山口 栄一 30

初秋 高木風外 31

誌友随筆〔目次では題名のみ〕 高木風外 36

秋将に立つ 星野幽美歌 38

一人の人間の 松村 罔松 38～40

秋風漫筆 香取 彪夫 40～41

随筆詩人佐々木指月 丸山 次長 42

文豪蘆花の一生終る〔目次には記載なし〕 岸川又穂 他7名 56～57

加美仲野風評〔目次では「上中野風論」〕 大塚秀夫 他3名 78～79

八・九月号批評壇〔目次では「八九・月号批評」〕 都潜夫 他5名 80～83

文芸自由論戦場 都潜夫 他5名 80～83

詩欄印象〔八・九月号〕〔目次では「詩欄印象」〕 高木風外 84～85

愚論盲論一蹴 河野 春路 88～89

誌友月旦 高木風外 他7名 90～93

混沌と迷妄の時代 都 潜夫 96

誌友漫評 高木風外 他1名 97

散文〔編輯部選〕

高木風外 他 8名 50～55

新しい聖歌〔同右〕

清水好太郎 43

感想

高木風外 他 7名 58～61

秋日雜詠草〔目次では「秀詠集」〕

高木風外 他 9名 44～50

短文

上中信夫 他 23名 62～65

九月号批評壇〔目次では「九月号（文芸）の批評」〕

伊和意気芳 他 3名 58～59

詩〔大鹿卓選〕

三枝幸夫 原野夜潮〔佳作〕 他 18名 66～71

十月号読後感と批評〔目次では「十月号（文芸）読後の感」〕

高木風外 他 2名 78～81

選後に〔目次には記載なし〕

〔無署名〕 71

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

上中信夫 他 8名 86～87

はははは

高木風外 他 2名 78～81

童謡〔幽波選〕

広田益郎 他 6名 94～95

現代の詩人に与ふ

中野駿太郎 他 2名 81

心から心へ

操 生 102～103

誌友月旦

山田水哉 他 7名 88～96

忙中閑語

操 生 104

文芸自由論戦場

神田哲雄 他 4名 97～99

第五卷第十一号 十一月号 短歌号 昭和2・11・1 104頁

玉詠集〔短歌再録〕〔目次では「玉詠集（短歌）」〕

与謝野晶子 他 37名 6～9

短文 高木風外 海老名礼太 上中野風〔佳作〕 他 6名 60～65

歌は若々しき完成であれ

並樹 秋人 10～13

小曲〔サトウ・ハチロー選〕 上中野風 他 36名 66～71

八代集の雑感〔目次では「八代集雑感」〕

小林 鶯里 14～17

短歌〔小林綾子選〕 田高椎一 上中信夫 山口栄一〔佳作〕 他 14名 84～87

龍のはなし

赤堀又次郎 18～19

心から心へ 102～103

現歌壇への要望〔目次では「歌なき歌壇」〕

田上 黎民 20～22

忙中閑語〔目次では「忙中閑語」〕 操 生 104

現歌壇に対する諸歌人の要望〔アンケート〕〔目次では「現歌壇に対する諸歌人の要望」〕

齋藤茂吉 他 33名 22～27、34

第五卷第十二号 十二月号 俳句号 昭和2・12・1 104頁

す諸歌人の要望

山田清三郎 28～29

明治俳壇の大観 小林 鶯里 6～9

『生活派』短歌の一典型〔目次では「生活派短歌の一典型」〕

船原逸郎 他 2名 30～35

目黒の名物さんま〔目次では「目黒名物さんま」〕 赤堀又次郎 10～11

歌壇史縮稿その他

三枝幸夫 他 4名 36～42

芸術のふるさと 伊福部隆輝 12～14

歌論その他〔目次では「歌論数篇」〕

日本の笛〔目次では「新詩二篇」〕 塚本篤夫〔目次では「塚本夫篤」〕 43

アマチュア俳句観〔目次では「アマチュアの俳句観」〕 サトウ・ハチロー 15～17

死の章 吉田一穂 18〜20

俳人の書簡 小林操 21〜24

短詩十二月 鷺里生 25

新俳句への動きを〔目次では「新俳句への動きと」〕 高木風外 26〜29

妻を憶ふ 塚本篤夫 30

秋の風 小徳喜有次 31

踵(小説) 角園善五郎 32〜35

俳論その他〔目次では題名のみ〕 原田紫星 36〜37

三多摩俳壇の現状 塩田物透 37〜39

新旧俳句に就て 野口幸生 39〜40

歌俳合一論 井崎進 40

新詩と新傾向の俳句 長谷川清 40〜41

生活の芸術断想 高木風外 吉村耕汀 石村秀石 上杉栄鳥 能村義助

短詩佳吟〔目次では「短詩佳汁」〕 滝田清 51

加藤風声 上中信夫 48〜50

主義か芸術か〔目次には記載なし〕 上中信夫 48〜50

冬!!!冬!!!〔目次には記載なし〕 滝田清 51

誌友月旦 上中信夫 他5名 52〜55

文芸自由論戦場〔目次では「自由論戦」〕 都潜夫 他5名 56〜59

推薦詩三篇〔目次では「詩三篇」〕

鱗映 断崖 山口栄一 60〜61

秋の食欲 伊藤静 61

雑詠集〔目次では「俳句」〕 小磯清五 他118名 62〜67

散文〔編輯部選〕 海老名礼太 他16名 74〜83

感想 都潜夫 他9名 84〜88

短文 高木風外 他28名 89〜93

詩〔大鹿卓選〕 海老名礼太〔佳作〕他18名 96〜99

選後に〔目次には記載なし〕 卓 99

誌友漫評〔これでもか?〕 上中信夫 他2名 100〜101

心から心へ 忙中閑語 操生 102〜103

第六卷第一号 新年号 同人雑誌紹介号 昭和3・1・1 200頁

小説作法講座第一回小説の本領〔評論〕〔目次にはNo.なし 以下十二月号まで同様〕 小林鷺里 12〜15

書き初め(随筆)〔目次には「書初め(随筆)」〕 赤堀又次郎 16〜17

強弱(小説) 倉田潮 18〜21

三つの皮肉な話(小説) 尾瀬敬止〔目次では「尾瀬敬二」〕 22〜26

コルク屋騒動(戯曲)〔目次では「コルク工場」〕 岡下一郎 27〜37

竜胆の花(短歌) 並木秋人 38〜39

文芸家の使用語に就て(評論) 内藤辰雄 40〜44

反逆精神突破(評論) 松村善寿郎 47〜47

小日向台町(詩) 大鹿卓 48

夜は桃色 夏 夏(詩)〔目次では「夜は桃色(他一篇)(詩)」〕 山田久磨夫 49

秋風抄(小説) 遠地輝武 50〜55

人生の静物 秋風に吹かれて〔目次では「短篇二つ」〕

別れる時(詩)

風 早次郎 56 ~ 59  
塚本篤夫 60

冬空 ひからびた街 病陽(詩)〔目次では「冬空」のみ〕

『東海の島に咲く花 一つ一つ指折りてみんつれづれの日に』  
〔目次では「北海道詩壇の現状」〕 海老名礼太 106 ~ 108  
富山県文壇の状況〔目次では「富山文壇の状況」〕 失名氏 108  
同人雑誌の批評

朝(小説)

平井仁八 61  
近藤二三郎 68 ~ 73

居常雑詠(短歌)

楠田敏郎 74 ~ 75  
小林 操 75

暮から春へ(俳句)

松川弘太郎 75

郊外の晩秋を(俳句)〔目次には記載なし〕

雪の日に 芦屋風景(民謡)〔目次では「雪の日に(民謡)」〕

憎い雨 短章(民謡)〔目次では「憎い雨(民謡)」〕

塚本篤夫 78 ~ 79  
名方和郎 79

全国同人雑誌の紹介

都 潜夫 60 ~ 61  
古賀残星 76 ~ 77

新人紹介

蟹(詩) 海老名礼太 109 ~ 111  
竹(詩) 上中信夫 111  
十月丘(詩) 山口栄一 112 ~ 113

地方文壇概況

雑詠四人〔目次では「短歌」〕  
無腸俳諧雑考 岸野花泉 北島春作 上杉棠鳥 櫻葉孝男 120 ~ 121  
白川碧星 82

静岡文壇紹介〔目次では「静岡文壇の紹介」〕

川添基治 80 ~ 81

新興文壇に於ける『富士山』の出現〔目次では「『富士山』の出現」〕

尾崎放哉の俳句 須木田孤泉 92 ~ 93  
並木秋人氏と私 神田哲雄 112  
北原白秋氏の詩 高木風外 164 ~ 166  
超人間的への対象 山賀和夫 166 ~ 167

北海道文壇を破る

上中信夫 81

高知地方の文壇

杉沢文月 100 ~ 101

防長文壇の曙光

田内滋治 101 ~ 103  
柳 葉子 103 ~ 104

福井文壇の現状

上中信夫 104 ~ 105

統一スローガンの下に〔目次では「統一スロープの下に」〕

山賀和夫 105 ~ 106

詩〔大鹿卓選〕

三枝幸夫 原田紫星 中野茂二〔佳作〕他25名 168 ~ 176

短文

上中信夫 他35名 152 ~ 157

感想

高木風外 他7名 137 ~ 141

散文〔編輯部選〕

高木風外 飯島五郎 原野夜潮〔佳作〕他8名 126 ~ 133

〔p83 ~ p91まで切り抜き〕

山賀和夫 他8名 166 ~ 167

〔p83 ~ p91まで切り抜き〕

山賀和夫 他25名 168 ~ 176

選後に〔目次には記載なし〕

卓

176

第六卷第二号 二月号 昭和3・2・1

96頁

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

諸節幽生 海老名礼太 原田紫星〔佳作〕他13名

178  
181

小説作法講座第二回文芸出発に際しての根本問題  
唐詩選の中の二三  
不遇作家の発狂

小林篤里 6  
赤堀又次郎 10  
松波治郎 12  
島田美彦 19  
松岡貞徳 24  
矢部道氣 25  
峰岸義一 39  
大鹿卓 30  
赤堀又次郎 32

民謡〔幽波選〕

原田紫星〔入賞〕 竹見たけを 中野茂二〔佳作〕他9名

182  
184

家鴨とその主人  
鎌倉の秋〔短歌〕

松岡貞徳 24  
島田美彦 19  
松波治郎 12  
赤堀又次郎 32

短歌〔小林綾子選〕

誌友月旦個人評

山田水哉 他7名

134  
136

丘畑に〔短歌〕

松岡貞徳 24  
島田美彦 19  
松波治郎 12  
赤堀又次郎 32

上中・高木・渡部合評会〔目次では「上中・高木・渡部合評会」〕

高木風外 他12名

142  
143

東京を憶ふ〔短歌〕  
しかと生命を抱きて

峰岸義一 39  
大鹿卓 30  
赤堀又次郎 32

十一月号批評

文芸自由論戦場

荒谷与郎 他5名

144  
147

「いとしき泣きぼくろ」の手紙  
近詠〔目次には記載なし〕

小林綾子 27  
大鹿卓 30  
赤堀又次郎 32

漫評漫文〔目次では「漫文漫評」〕

十一月号小曲欄雑想〔目次では「十一月小曲欄雑想」〕

原田紫星 他2名

158  
159

玉詠集〔前号の雑誌から〕〔再録〕〔目次では「玉詠集」〕

前田夕暮 他11名 33

十一月号歌壇評〔目次では「十一月歌壇評」〕

俳論二題〔目次では題名のみ〕

高木風外 他1名

185  
186

蠹くもの 秋は泣く 夜の顔〔詩〕〔目次では「蠹くもの（外二篇）（詩）」〕

森田緑雨 34  
三枝幸夫 35  
山口英一 36

俳諧小史

寂人一茶雑考

藤原春夫

192

冬晴れ〔詩〕

三枝幸夫 35  
山口英一 36

短詩佳吟寸感記〔目次には記載なし〕

森ひふみ君に与ふ〔目次には記載なし〕

藤春不学

193

朝の食卓〔詩〕〔目次では「朝の食卓（外一篇）（詩）」〕

山口英一 36

十二月号秀逸品 印象批評〔目次には記載なし〕

道徳的な自由を發揮せよ〔目次には記載なし〕

高木風外

194

八軒長屋〔詩〕〔目次には記載なし〕

小徳喜有次 37

心から心へ

塩田物透

195

民謡二篇〔目次では題名のみ〕

名方和郎 38

後記〔目次では「忙中閑語」〕

夢 邦 生

195

涙の月日〔民謡〕

塚本篤夫 38

操 生

永井夢邦

196

宵の灯〔民謡〕

峰岸義一 39

後記〔目次では「忙中閑語」〕

推薦詩三篇〔目次では題名のみ〕

197  
199

東京を憶ふ〔短歌〕

海老名礼太 46

洗礼の朝

洗礼の朝

200

推薦詩三篇〔目次では題名のみ〕

海老名礼太 46



陶器のうぐひす (小曲)

中野茂二 46 ~ 47

樽

大鹿 卓 34 ~ 35

雨が降る (小曲)

稲垣静涙 47

友へ

神谷 暢 22 ~ 23

文芸自由論戦場

小島藤十郎 他3名 48 ~ 50

月光と優しい母の言葉 [目次では「日光と優しい母の言葉」]

誌友月旦個人評

高木風外 他4名 52 ~ 55

隣

岡田光一郎 23 ~ 24

漫評漫言 [目次には記載なし]

梅村きよし 他1名 55

時代に忘れられた海村 [目次では「時代に忘れられたる海村」]

菊田一夫 24 ~ 25

詩欄雑感

神坂五郎 他3名 75 ~ 77

十二月号・新年号批評

富田二郎 他3名 83 ~ 86

俳句の読後感 [目次では「俳句読後感」]

塩田物透 他3名 92 ~ 94

牛と嵐

三枝幸夫 25

散文 [編集部選]

山田水哉 他8名 62 ~ 67

行きつきて 冬丘 [目次では「行きつきて」のみ]

高木秀吉 28

感想

茂呂風土 他7名 68 ~ 71

春への楽譜

温井義信 28 ~ 29

短文

しまだ 他7名 72 ~ 74

イルミネーションを喰べる

日野春助 29

詩 [大鹿卓選]

高木風外 他17名 78 ~ 82

少年の日をとむらふ [目次には記載なし]

海老名礼太 29

選後に [目次には記載なし]

卓

雨滴

山口英一 30

小曲 [サトウ・ハチロー選]

広田ますを 他13名 87

無題

村浦尚志 30

民謡 [幽波選]

海老名礼太 他6名 90

老ひた父を思ふ

山内恭三 31

心から心へ

綾 子 96

さぶしい兄弟

乾 直恵 31

後記

冬

短草「蟻沈む」より 刃物 痰 街 ドンペ 西湖

金子光晴 32 ~ 33

第六卷第三号 三月号 昭和3・3・1 104頁

小説作法講座第三回自然主義と客観的態度

小林篤里 6 ~ 12

唐豆は炬燵で食ふ 魚屋 [目次では「唐豆は炬燵で食ふ」のみ]

橋倉柳泉 38

青葉 若葉 枯枝 [目次では「若葉、青葉、枯枝」]

赤堀又次郎 20 ~ 21

永遠の種子を蒔く

島田芳文 39

小説と小品

坂本 遼 13 ~ 15

病院にて

小林 操 40 ~ 41

いも畑の出来事

尾形亀之助 16 ~ 19

文芸自由論戦場

飯島五郎 他3名 48 ~ 51

月と手紙



誌友文芸欄

散文〔編輯部選〕

中野茂二 他8名 54〜59

初春

日野春助 28〜29  
会田 毅 29

感想

堀江真砂光 他7名 60〜63

一枚の紙

海老名礼太 29

短文

松本豊 他18名 74〜76

忍従のしもべ

中山映村 36

詩〔大鹿卓選〕

上中信夫 他19名 77〜81

PROFIL

佐野嶽夫 36〜37

選後に〔目次には記載なし〕

〔無署名〕

一つの室には愛はただ一つ〔目次では「一つの室には愛は只一つ」〕

短歌〔小林綾子選〕

82〜85

湯川宗二 37

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

推薦〔目次には記載なし〕

中村樹一 堀江真砂光〔佳作〕他13名 89〜91

雨〔推薦〕〔目次には「雨（小説）（推薦）」〕

河村 裕 30〜34

民謡

加藤はる桜 他15名 96〜99

アパツシユ（一幕物）〔佳作〕〔目次には「アパツシユ（一幕物）（推薦）」〕

心から心へ

102〜103

都 潜夫 38〜41

編輯後記

操 生 104

推薦詩二篇と小曲〔目次では「推薦」〕

床下

山本榕二 42

第六巻第五号 五月号 昭和3・5・1 88頁

小説作法講座第五回リアリズムとロマンチズム

小林鶯里 6〜9

青き梢ふるる（佳作）

松本覚朗 43

小説と小品

岡下一郎 10〜14

同人雑誌評一つ一つを手を取れば

海老名礼太 44〜46

悪魔？ 俳聖芭蕉の奥羽行脚〔目次では「芭蕉の東北行脚」〕

小林鶯里 26〜27

三月号詩欄評〔目次では「三月号詩評」〕

高木風外 他1名 61〜64

短歌

松岡貞徳 15〜16

現詩壇への言葉〔目次では「現詩壇の批判」〕

松島国雄 他2名 70〜72

山深し

矢部通気 16〜19

自由評論二篇〔目次では「文芸家と書家」〕

神田哲夫 他1名 76〜77

病中詠

大鹿 卓 20〜26

門脇文氏の「鏡」に就て〔目次には記載なし〕

都 潜夫 80

三つの詩境

山口英一 28

ある考察〔目次には記載なし〕

永井夢邦 80〜81

生命の光り

俳壇と歌壇の評〔目次では「詠草の評」〕

誌友文芸

夏冬臥城 他2名 82

俺はぐつすりと眠りたい〔目次では「俺はぐつすり眠りたい」〕

散文〔編輯部選〕

白川正美 他8名 47〜52

感想

小林金太郎 他6名 53 ~ 56

田舎の理髪舖〔目次では「田舎の理髪師」〕

山口英一 32 ~ 33

短文

小林畔草 他22名 57 ~ 60

爐想

山岡 巖 33

詩〔大鹿卓選〕

中山福一 三井繁樹〔佳作〕他15名 65 ~ 69

橋

会田 毅 33

選後に〔目次には記載なし〕

卓

詩について思ふ〔目次では「詩上について思ふ」〕

島影 盟 34 ~ 37

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

中野茂二〔佳作〕他12名 73 ~ 75

哀調行進曲

海老名礼太 38

民謡

中野茂二他7名 78 ~ 79

人生

森田緑雨 38 ~ 39

心から心へ

操 生 86 ~ 87

美しい空と俺

橋倉柳泉 39

忙中閑話

操 生 88

丘に立つ

井上逸夫 39

推薦詩二篇と小曲〔目次では「推薦」〕

暮るゝ展望

諸節 幽生 40

草の葉

竹見竹雄 40 ~ 41

山いばら〔民謡〕〔佳作〕 山へ〔目次では「山いばら〔民謡〕のみ」〕

田高椎一 41

小説と小品

小林鶯里 6 ~ 9

美人の不安

青山倭文二 10 ~ 12

「春霞暮情」の作者に寄す〔目次では「春霞暮情」の作者によす〕

神田哲夫 56

加賀の千代〔目次では「加賀千代」〕

西谷勢之介 13 ~ 18

諦視春秋

永井夢邦 57

亡鬼

金子光晴 19

同人雑誌逐次評

原田紫星 58 ~ 59

京みやげ

赤堀又次郎 20 ~ 21

四月号「文芸」批評〔目次では「四月号『文芸』批評」〕

安藤邦夫 他5名 64 ~ 67

短歌

並木秋人 22 ~ 23

自由評論四篇〔目次では「文芸自由論戦」〕

都潜夫 他3名 72 ~ 73

展望

森田麦の秋〔目次では「藤田麦の秋」〕

詩集『手』の評〔目次には記載なし〕

小徳喜有次 79

水郷の春

尾崎みつ子 25

誌友文芸

志友文芸

野にいでゝ

松村又一 26 ~ 28

散文〔編集部選〕

小林畔草 他9名 49 ~ 55

労作民謡の価値

菊田一夫 29 ~ 31

感想

明円政二 他6名 60 ~ 63

西辰湖

吉野保二 32

童女に

吉野保二 32

短文

白川俊雄 他22名 68～71

女を焼く

海老名礼太 52

詩〔大鹿卓選〕

工藤卓一郎〔佳作〕他17名 74～78

ある港の朝

広田万寿夫 52

選後に〔目次には記載なし〕

卓

スケツチ

山口英一 53

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

塩田物透〔佳作〕他14名 88～90

勇敢な水兵

末繁博一 53

消息〔目次には記載なし〕

〔無署名〕

馬車うま

阿蘇谷 信 54～58

誌友月旦

高木風外 他4名 92～93

港の小唄

白川俊雄 59～62

心から心へ

94～95

精神病院の春

巢々木春湖 63～67

忙中閑語

〔無署名〕

推薦詩二篇と小曲〔目次では「推薦」〕

第六卷第七号 七月号

昭和3・7・1 96頁

小説作法講座第七回読書と観察

小林鶯里 6～11

曙と情致

太田 武 68～69

検校保巳一

赤堀又次郎 12～13

瞳に海鳴を見る

松本覚朗 69

畸形児

三宅 彰 14～20

或る悲劇の部屋

渡部左次馬 70～71

曳綱

金子光晴 21

身辺雑事

森田 緑雨 72～73

逝けるK兄へ

近藤二三郎 22～25

詩〔大鹿卓選〕

松本覚朗 藤原敏雄〔佳作〕他14名 82～86

短歌

選後に〔目次には記載なし〕

卓 生 86

村山貯水池附近

新橋 紅子 26～27

小曲〔サトウ・ハチロー選〕〔目次では「民謡」〕

永井申一郎〔佳作〕他14名 87～89

皐月集

羽田野繁子 27～28

岡下氏の「悪魔？」と〔目次では「岡下氏の悪魔を」〕

永井 夢 邦 90～91

近詠

杉浦 静江 29

階級文学の宣揚

白川 正 美 91～92

冬眠

島 尚一 30～34

「ある考察」を読み〔目次では「ある考察を読みつ」〕

中野 駿 太郎 92～93

ある死火山の麓の街の人々〔目次では「ある死火山の麓の町の人々」〕

杉沢 文 月 46～51

心から心へ〔目次には記載なし〕

操 生 94～95

詩五篇

編輯後記〔目次には記載なし〕

操 生 96

町 風笛 暮春〔目次では「町（外二篇）」〕

松本 郁 之 介 36～37

第六卷第八号 八月号 昭和3・8・1 96頁

小説作法講座第八回個性について〔目次では「個性に就て」〕

早稲田大学近く出版科新設〔目次では「早大出版科新設記念講演会」〕

小林鶯里〔談話〕 46～47

矢橋兄弟の日記

小林鶯里 6～11

梵字と漢字

岡田光一郎 12～15

檐巢の声〔短歌〕

赤堀又次郎 16～17

再び盲腸を病みて〔短歌〕

並木秋人 18～19

妻

小林 操 19

詩九篇

小堀義夫 20～25

四阿亭にて

池のほとり〔目次では「四阿亭〔外一篇〕」〕

竹中 郁 26

風景小品 群鳥〔目次では「風景小品」のみ〕

福原 清 26

初春抒情

今岡 弘 27

六畳

山口英一 27

陽だまり〔目次では「陽だより」〕

会田 毅 34

自棄

杉浦伊作 34

兵営を訪ねて〔目次では「兵営を尋ねて」〕

井上逸夫 34

朝顔を探す生活〔目次では「朝顔をさかす生活」〕

海老名礼太 35

感謝

森田緑雨 35

頤髭

河村 裕 28～33

貧しき小作人の妻

馬場春江 40～43

川柳和歌史考〔目次では「柳和歌史」〕

小林操郎 36～37

文芸・青光断評〔目次では「『文芸』『青光』断評」〕

海老名礼太 38～39

空ペン軸

松川碧泉 44～45

推薦詩一篇〔目次では「推薦」〕

友の画に題して

太田 武 56

アパツシユ（一幕物）に就て〔目次では「『アパツシユ』と河村氏の作品批評」〕

春 島 生 62

河村裕氏作「雨」感想評〔目次には記載なし〕

松岡義樹 62～63

高木君に与ふ〔目次には記載なし〕

渡部左次馬 63

六月号誌友作品一覽評〔目次では「六月号批評」〕

高木風外 66～67

自由評論

夢邦 他6名 72～75、92

誌友月旦

春島奈美帆 他1名 93

誌友文芸

散文〔編輯部選〕

小林畔草 他4名 58～61

感想

島田丹光 他3名 64～65

短文

原田紫星 他22名 68～71

詩〔大鹿卓選〕

三浦重司 中村樹一〔佳作〕 他12名 76～79

選後に〔目次には記載なし〕

卓 生 79

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

中野茂二 英一英〔佳作〕 他7名 88～89

民謡

浅輪雅尾 他7名 90～91

心から心へ

94～95

編輯後記

操 生 96

第六卷第九号 九月号 昭和3・9・1 96頁

小説作法講座第九回小説に於ける論証体について

小林鶯里 6～9

ある過去（一幕物）

宮武杉江 10 〱 14

短文

高木風外 他15名 68 〱 70

夜桜（短歌）

吾妻乙矢 15

詩〔大鹿卓選〕

山本榕二〔推薦〕

原田紫星〔佳作〕他13名 71 〱 75

出版のはなし〔目次には「出版のはなし（随筆）」〕

赤堀又次郎 16 〱 17

選後に〔目次には記載なし〕

卓 75

詩の表現・内容の分類（詩論）〔目次では「詩の表現内容の分類（詩論）」〕

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

中村樹一〔佳作〕他13名 84 〱 86

金子光晴 18 〱 21

民謡

高木風外 他7名 91 〱 92

土の香と街の香と（短歌）

吉田二郎 22

支部の消息 人事の消息〔目次では「消息」〕

〔無署名〕 55

荒川遊草（短歌）

戸村朴人 23

心から心へ

操 生 94 〱 95

兄の死（小説）

日野草笛 27

編輯後記〔目次には記載なし〕

96

霧の夜港（詩）

広田万寿夫 28

函館の町（詩）

海老名礼太 29

第六卷第十号 十月号 昭和3・10・1 96頁

海音（詩）

山口英一 29

小説作法講座第十回小説に於ける説明と描写

小林鶯里 6 〱 11

梅雨時（詩）

来海政敏 29

日本武尊と弟橘姫（一幕）〔目次では「日本武尊と弟橘姫（戯曲）」〕

窓を明けて（随筆）〔目次では「窓をあけて（随筆）」〕

中西敏一 30 〱 32

読書のはなし（随筆）

並木秋人 12 〱 19

彼（小説）

水町洋二 33 〱 35

金（小説）

赤堀又次郎 20 〱 21

川柳和歌史考（二）〔目次にはNo.なし〕

小林操郎 36 〱 37

詩七篇

中屋義三 22 〱 25

文芸評論

安藤実 他4名 43 〱 47、56 〱 63

七月号誌友作品一覽評〔目次では「批評と感想」〕前号作品評〕

春雨の日

海老名礼太 26

誌友月旦

杉沢文月 他4名 64 〱 67

夕日沈む頃

井上逸夫 26

誌上ユーモレスク

高木風外 他4名 87 〱 89

聖なる刹那 静境〔目次では「聖なる刹那（外一篇）」〕

山口英一 26 〱 27

散文〔編輯部選〕

加藤春桜 他3名 92 〱 93

蟹 ザボレ 微笑〔目次では「蟹（外二篇）」〕

松本郁之助 36 〱 37

感想

草笛 他6名 38 〱 42

新秋雜記（随筆）

中西敏一 28 〱 30

俳句雜詠〔小林鶯里選〕〔目次では「俳句」〕

中野駿太郎 他4名 43 〱 45

香を焚く

海老名礼太 31 〱 35

短歌雜詠〔小林綾子選〕〔目次では「短歌」〕

60 〱 63

和歌

宵待草と桔梗

柳田新太郎 38

一塵曾不侵

赤堀又次郎 12

展墓

菊池 峻 39

T氏

島 尚一 14

贈りもの

小島君之助 40

労働者町の情熱〔目次では「労働者の情熱」〕

菅原清生 18

彼のプラン

神 島雄〔目次では神島 雄〕 43

詩章教篇

菅原清生 18

自由論戦

渡部左次馬 他7名 53

ひなぶり

赤堀又次郎 26

八月号誌友作品一覽評〔目次では「八月号誌友作品批評」〕

高木風外 他7名 64

孝心低唱

菊池 峻 27

推薦詩三篇〔目次では「詩推薦」〕

高木風外 他7名 64

秋騒鳴る

山口英一 28

からまつ林

原田紫星 68

手術室

東野 純 28

金魚

原田紫星 68

雨後

岡田刀水士 28

秋色

中村樹一 69

風の心

小徳喜有次 29

批評と感想〔目次では「小曲と民謡の評」〕

高木風外 他1名 86

死の遊戯

金子光晴 34

同人雑誌の批評〔目次では「同人雑誌印象記」〕

原田紫星 他1名 90

比叡山根本中堂〔目次には記載なし〕

赤堀又次郎 41

誌友月旦

高木風外 他4名 92

美しき憧憬を画く

乾 直恵 42

散文〔編輯部選〕〔目次には記載なし〕

白木理久夫 他4名 60

あほ空

湯川宗二 42

詩〔大鹿卓選〕

丘孝〔佳作〕他16名 70

あじさるに与ふる七つの詩〔目次では「あじさるによする詩」〕

江口隼人 43

選後に〔目次には記載なし〕

卓 74

あじさるに与ふる七つの詩

江口隼人 43

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

原田紫星 浅輪雅尾〔佳作〕他8名 84

鴨の渡つて行つた朝〔目次では「鴨の渡つた朝」〕

杉沢文月 30

民謡

小駒菊磨夫 他7名 88

天城から見る海

山本榕二 36

心から心へ

94

自由論戦

塩田物透 他1名 56

編輯後記〔目次には記載なし〕

操 生 96

薔薇にも聞け〔地方詩壇紹介〕〔目次では「薔薇にも聞け」〕

太田 武 62

第六卷第十一号 十一月号 昭和3・11・1 96頁

創作批評

中野駿太郎 他2名 84

小説作法講座第十一回小説に於ける物語様式

小林篤里 6

詩人故三枝幸夫追悼祭壇〔目次には記載なし〕

山本榕二 87



苦言一束〔目次には記載なし〕

青柳杏樹 90～91

串田密太郎〔目次では「串田富太郎」〕 25

誌友月旦

深川秀邦 他1名 92～93

水郷哀歌

北島春作 31

散文

且野草笛 他6名 51～55

女廿六〔目次では「女二十六」〕

高木風外 26～30

感想

小林金太郎 他6名 58～61

落日

且野草笛〔目次では「且野草笛」〕 34～36

短文

山田光夫 他10名 64～65

詩章数篇

詩〔大鹿卓選〕

小駒菊磨夫〔推薦〕他15名 66～70

哀笛顫〔目次では「哀笛唱」〕

広田万寿夫 32

選後に〔目次には記載なし〕

卓 70

無題

森田緑雨 32

小曲〔サトウ・ハチロー選〕

中村樹一 他14名 71～73

秋の理智

山口英一 32

民謡〔編輯部選〕

香取彪夫 他7名 74～75

恋は顫へる

吉野保二 33

短歌雑詠〔目次では「短歌」〕〔小林綾子選〕

87～89

情熱〔目次では「詩一篇」〕

金子光晴 37

口語歌〔編輯部選〕

90～91

奥多摩にて

河本正義 38

俳句〔小林鷺里選〕

92～93

蟹の人生観

海老名礼太 38～39

心から心へ

94～95

誘惑

後藤八重子 39

編輯後記〔目次には記載なし〕

操生 96

岬 朝冷〔目次では「岬」のみ〕

乾 直恵 39

川柳和歌史考(三)〔目次にはNo.なし〕

小林操郎 40～41

### 第六卷第十二号 十二月号 昭和3・12・1 96頁

小説作法講座第十二回小説に於ける物語様式(二)

小林鷺里 6～8

草 意志 山と樹木 雨〔目次では「草(外二篇)」〕

太田 武 50

辰夫の母(小説)

森田緑雨 8～11

林の小鳥よ〔目次では「林の小鳥」〕

原田紫星 50～51

正岡子規の歌学思想

赤堀又次郎 12～13

雁の遊行〔目次では「雁の遊戯」〕

松本格朗〔目次では「松本覚朗」〕

石を投げる者(小説)

宮本武吉 14～20

暮(小曲)

八倉巻要一 51

冬の夜に憶ふ

小林 操 21～23

誌友月旦

檀木幽史郎 他5名 58～59

短歌

神戸 猛 24

芥川龍之介論

佐藤義三郎 他1名 62～65

秋日雑唱

関本 仁〔目次では「関井 仁」〕 24～25

石川啄木一行感記〔目次には記載なし〕

高木風外 71

秩父紀行

関本 仁〔目次では「関井 仁」〕 24～25

石川啄木一行感記〔目次には記載なし〕

高木風外 71

同人雜誌評〔目次には記載なし〕

批評と感想

同人雜誌短評〔目次には記載なし〕

詩欄印象記〔目次では「前月号の批評」

散文〔編輯部選〕

短文

詩〔大鹿卓選〕

選後に〔目次には記載なし〕

小曲〔サトウ・ハチロー選〕 中山福一 浅輪雅尾〔佳作〕他7名 72 73

短歌雜詠〔小林綾子選〕〔目次では「和歌」

口語歌〔編輯部選〕

民謡〔編輯部選〕

消息

心から心へ

編輯後記

山本榕二 74 75

青柳杏樹 他3名 84 87

宮本柳泉 88 89

大岩正夫 92 93

原野夜潮 他7名 52 57

原田紫星 他10名 60 61

大岩正夫 他16名 66 70

卓 70

中村樹一 他7名 90 91

〔無署名〕 49

88 89

74 75

94 95

96

操 生 96

注

(3) 生田葵山 生方敏郎 相川俊孝 新井紀一 中河与一 若月保治

内藤辰雄 川崎長太郎 須藤鐘一 武野藤介 倉田潮 楠田敏郎

下村千秋 野島辰次 松本清太郎 松本淳三 萩原新生 犬田卯

江部鴨村 長谷部孝 中西伊之助 戸川貞雄 井東憲 南部修太

郎 浅原六朗 小野田益三 赤松月船 生田蝶介 大槻憲二 中

村星湖 井汲清治

(4) 犬田卯 江部鴨村 若月保治 野島辰次 楠田敏郎 下村千秋

山田清三郎 倉田潮 武野藤介 細田源吉 須藤鐘一 川崎長太

郎 内藤辰雄 井汲清治 中村星湖 大槻憲二 赤松月船 沖野

岩三郎 岡下一郎 小野田益三 浅原六朗 南部修太郎 青木健

作 井東憲 片田江全雄 戸川貞雄 中西伊之助 伊藤松雄 生

田葵山 生方敏郎 新井紀一 中河与一 宮嶋資夫

(5) 神戸雄一 前田鉄之助 小野十三郎 村野四郎 宮崎丈二 百田

宗治 角田竹夫 清水孝祐 陶山篤太郎 吉田一穂 サトウ・ハ

チロ一 川路柳虹 佐藤英磨 春山行夫 正富汪洋 萩原恭次郎

手塚武 黄瀛 中西悟堂 伊福部隆輝 福原清 大関五郎 赤松

月船 松本淳三 加藤介春 佐藤惣之助 広瀬操吉 渡辺渡 勝

承夫 尾形亀之助 岡村二一 西川勉 相川俊孝 三好十郎 村

井武生 壺井繁治 諸富青児 勝田香月 清水好太郎 大鹿卓

内野健児

(6) 大森眠歩 長谷川伸 白井喬二 小酒井不木 矢田挿雲 土師清

二 齊藤龍太郎 本山荻舟 国枝史郎 畑耕一 木村毅 中村星

湖 額田六福 白柳秀湖 江見水蔭 直木三十五 前田曙山 江

戸川乱歩 甲賀三郎 吉川英治 高桑義生 前田孤泉 森曉紅

渡辺黙禪

(7) 宮地嘉六 齊藤龍太郎 国枝史郎 村松梢風 森下雨村 津村京

村 小酒井不木 仲木貞一 楠田敏郎 白井喬二 田中真太郎

矢田挿雲 江戸川乱歩 中村星湖 須藤鐘一 犬田卯 邦枝完二

千葉亀雄 山田清三郎 白柳秀湖

(8) 内藤辰雄 新居格 生田春月 佐藤惣之助 高須芳次郎 北沢新

次郎 三田村鳶魚 薄田泣菫 戸川貞雄 木村秀吉 白柳秀湖

須藤鐘一 赤堀又次郎 高嶋米峰 鷹野つぎ 今野賢三

(9) 橋田東声 与謝野寛 尾山篤二郎 石樽千亦 並木秋人 西村陽

吉 浅野梨郷 矢嶋歆一 生田蝶介 花田比露思 永田龍雄 三

井甲之 中河幹子 矢代東村 水町京子 豊島逃水 新見はるを

桐田落村 河野慎吾 菊地庫郎 藻谷六郎 平山鉄海 日比野道

雄 岡野直七郎 四海民蔵 今中楓溪 中原綾子 蕨檀堂 和田

山蘭 若林牧春 穂積忠 小田観螢 馬場静浪

(いのくま ゆうじ 日本語日本文学科)